



MY FIELD とは ...

原村の地域おこし協力隊が発行するかわらばんのことです。
原村で暮らす、おもしろくて素敵なひとを紹介します。



Instagramやっています♪

https://www.instagram.com/haramura_nagano/

「株式会社 吉兆園」
平出 悠太さん

28歳



原村生まれ。大学進学をきっかけに上京し、そのまま東京で就職。テレビ番組の制作会社へ入りアシスタントディレクターとして三年勤務。その後、原村へ戻り家業であるセロリ栽培を株式会社吉兆園として家族で設立。取締役を担う。祖父のニックネームである『きつちよう』に、よいことが起こる前触れと言う意である『吉兆』の字を当て、農業の未来に希望を込めている。

「株式会社 吉兆園」

電話 ○二六六一七九一七七九九

自ら何かを生み出し、自分の仕事にする生き方のおもしろさ。

セロリ農家の長男として原村に生まれ悠太さん。ゲームが大好きで先進的な考え方をしていたが、周囲には理解してもらえず、価値観の違いにずっと違和感を抱えて過ごしていた。大学進学をきっかけに上京し、同じような価値観を持つ人と出会い「自分の感覚は間違っていないかった！」と実感したという。大学卒業後は東京でテレビ番組の制作会社へ就職し、アシスタントディレクターをしていたが、その職業を選んだ理由が「一番つらい仕事をしていけば後の事は大概できると思った。」とのこと。「自ら何かを生み出す仕事をしたい。」という考えから、この仕事は三年で辞めようと決めていた。

祖父はセロリ農家だが、父親は継いでおらず、悠太さんも継いでほしいと言われたことは一度もなかった。企画や広告などの仕事にも魅力を感じたが、雇われるのではなく自分の仕事にしたほうがおもしろいという先輩のアドバイスもあり、自らの意思で実家のある原村へ戻ってきたという。「農家を継ぐというよりは農業をやってみかった。」と全く異なる分野に挑戦する。その事を聞いた祖父は、言葉にこそしなかったが、喜んでるのが見て取れた。今年で農家3年目。東京では寝る暇もなく働き詰めだったが、セロリ農家も深夜から働きはじめるとハードな仕事だ。倒れた事も何度かある。「雇われていたときは、とりあえずこなせばいいとか手の抜きどころを探して仕事をしていたけれど、自分が手を抜いた部分が何ヶ月後にどのような表れるか考えると恐くて手が抜けない」と、自営であるという責任の大きさと、自ら考え動いて出た結果をみる面白さを実感しているようだ。

➡ NEXT

MY FIELD No.6 はオカリナユニット MOCCA の安川桃さんをご紹介！ 次回をお楽しみに～◎